

研究の成果と課題

本年度は、論理的思考を養うための指導法の理論研修を行い、その実践を通して、自ら学び、考えを深めることができる児童を育成することを目標として、研究を進めてきた。論理的思考力とは、「自分の考えを根拠や理由をもち、筋道を立てて説明する力」であるという共通理解のもと、論理的思考力をつけるための手立てとして、①「学習課題」の工夫 ②「発問」の工夫 ③「自分の考えを説明する場面設定」の工夫 に焦点を当て、各自が実践授業を行うとともに、国語科・算数科の研究授業を行った。それらの研究の成果と課題は次のとおりである。

【成果】

(1) 「論理的思考」についての学習会・理論研究

1学期に、山梨大学の茅野政徳先生（国語科）・早川健先生（算数科）を講師にお招きしての学習会を行い、それぞれの教科における『論理的思考』についての考え方や授業での具体的な手立てについて共通理解を図ることができた。

(2) 論理的思考を養うための授業実践と参観・学年ごとの振り返り（研究授業・一人一実践）

学習会での学びをもとに国語科、算数科の研究授業を行い、その授業を全員で参観したあと研究会を行うことができた。それぞれの授業は、茅野先生・早川先生にもご指導いただくことができた。全員同じ授業を参観し、その成果や課題を話し合う中で、お互いに学び合う機会がもてた。

また、全職員が『論理的思考』をつけるための手立てを取り入れた一人一実践（ウェルカム授業）を行う中で、児童が自分の考えをもち、自分の言葉でのびのびと発言する姿が多く見られるようになってきた。

その中で、論理的思考力をつけるための手立てとして取り組んだ3点については、「順序を意識させたことで自分の考えを整理しやすくなった。」「児童同士で意見を発表することで考えを共有でき、学びを深めることができた。」などの成果につながる反省も出されていた。

【課題】

今年度は、コロナ禍あり、また本校は大規模校で職員も児童も人数が多いこともあり、全員が一堂に会しての授業参観や研究会を行うことが難しく、試行錯誤の中で進めてきた。国語科の研究授業は学年1名が教室での参観し他の先生方には体育館でのリモート参観をお願いしたが、実際の教室の様子が伝わりにくかった。次の算数科ではその反省をもとに、教室のドアをはずして教室の中が密にならないように配慮しながら、教室での参観と隣の教室でのリモート参観を併用して行った。現状に合った参観の方法を工夫していく必要がある。

また今年度は、全体で話し合う時間をなかなかとることができなかった。研究授業の指導案検討やウェルカム授業の授業デザインシートの作成段階でもブロックごとに研究を進めて、共通理解を図っていくことも必要だった。また、ウェルカム授業がいつあるのかいつどこであるのかが分かりにくかったり、授業を見に行く時間が取れなかったりと、研究授業以外のウェルカム授業を有効に活用できなかった。

年度始めの提案と少しずつ方向が変わってしまった。いろいろな状況を見通した上で、年間計画を立てる大切さを実感すると同時に、その難しさも実感する1年だった。